

民主島根

2021年
9.12
第1391号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

菅首相辞任 国民の怒りの声が追い詰めた 本気の共闘で政権交代を 上代県委員長、地方議員ら先頭に街頭から訴え

菅首相が国民の世論と運動に追い詰められ、政権を投げ出したことを受け、日本共産党島根県委員会の上代善雄委員長、尾村利成副委員長ら県常任委員5氏が6日、松江市内で街頭宣伝を行いました。

上代委員長は「菅首相の退陣は、9年間にわたる安倍・菅政治そのものが破綻したということであり、自民・公明全体が共同責任を負っている」と指摘。「自民党総裁選で誰が新しい総裁になっても、破綻した自民党政治の枠内では現状を打開することはできない」と強調し、「目前に迫った総選挙で何よりも命を大切に求め、野党共闘を誠実に追求する日本共産党を大きく伸ばしてほしい」と呼びかけました。



宣伝する上代委員長(左から2人目)と県常任委員(6日、松江市)



勝田町長(右)と懇談する(左へ)大平氏ら(8月31日日、奥出雲町)



県内各地で地方議員を先頭に街頭に立ち、安来市では4日、宣伝行動に取り組みました。

コロナ、災害対策など懇談

奥出雲町長と大平氏ら

日本共産党の大平よしのぶ前衆院議員・衆院中国ブロック比例予定候補は8月31日、奥出雲町を訪れ、勝田康則町長と新型コロナウイルス対策や豪雨災害の被災状況などについて懇談しました。川西明德、田食道弘の両町議が同席しました。

勝田町長は、新型コロナウイルスのワクチン接種について「9月末までには希望者全員の接種を終える目処が立っている」と説明。県が開設した軽症者等を受け入れる宿泊療養施設の運営について、町に協力要請があったと語りました。

また、町内の宿泊業や観光業、飲食業は大変な状況が続いているとして、しっかり支援できるように国の「臨時交付金」の増額を要望しました。

豪雨災害については、土砂が家屋等の敷地内に流入している場合の撤去や家屋等に隣接する斜面崩壊の応急処理などの費用

市では4日、宣伝行動に取り組みました。

に對し、上限50万円を支援する制度を創設したことを紹介しました。

道の駅・奥出雲おろちろも訪問し、藤原紘子町長と懇談。「8月はコロナ感染拡大と豪雨の影響で売り上げが2〜3割落ち込んでいる」と苦し

総選挙に向け意見交換

党島根県委 立憲の亀井事務所長と

日本共産党島根県委員会の上代善雄委員長、尾村利成副委員長(県議)は2日、松江市内の立憲民主の亀井亜紀子衆院議員事務所を訪れ、総選挙に向けて懇談しました。

上代委員長は、今年4月の衆参3選挙、7月の東京都議選、横浜市長選での野党統一候補の勝利にふれ、「自公政権を倒すためにも、野党共闘を前進させましょう」と呼びかけました。

応対した上田豊所長は、亀井衆院議員が掲げ

い状況を語りました。大平氏らは、街頭宣伝にも取り組み、「災害やコロナから命を守るためにブレずに頑張る日本共産党を総選挙で大きく伸ばしてほしい」と呼びかけ、支援を訴えました。(写真上)

ている①公的医療機関の再編統合を見直し、地域医療を守る②消費税5%減税③憲法9条の遵守④自然エネルギーの促進などを含む「国づくり八策」を説明しました。

尾村副委員長は「島根原発2号機の再稼働は許さず、憲法を守り生かす政治をつくりましょう」と強調しました。

12日に松江、出雲の両市で山下芳生副委員長を迎えて開催する街頭演説会についても案内しました。

衆院中国ブロックの議席奪還、野党連合政権へ 日本共産党街頭演説

9月12日(日) 13:30~松江・県庁前
16:00~出雲・ラピタ本店前

弁士
党副委員長(参院議員)
よしき



山下 芳生

- 大平よしのぶ(前衆院議員・衆院比例中国)
- むこせ慎一(衆院島根2区)もお話します。

YouTube でオンライン中継します。自宅のパソコンやスマホを使って YouTube「jcpshimane」チャンネルで視聴できます。ヤフーやグーグルなどで「jcpshimane」と入力し検索して下さい。

鼓動

「伊藤博文以来、99代目の日本の首相でしたが、これほど無残な退陣劇はちよつと思ひ出せません」。

政治学者の御厨貴氏が指摘するように、菅首相の突然の退陣表明は、自らの延命のため迷走を重ねた方策が尽きるという醜悪な権力闘争の一端をのぞかせた。そして本質的には、志位委員長が言うように「コロナ失政、強権政治、腐敗政治に対する国民の『こんな政治は我慢ならない』という世論と運動に追い詰められた結果としての政権投げ出し」だった。自壊した菅政権をどう見るべきか。御厨氏は「厳しい言い方ですが、この一年、日本は首相が空席だったようなもの」と酷評した。この間コロナ禍で、わが国では緊急事態宣言が乱発され、多くのイベントが休止され、飲食店が廃業に追い込まれた。また入院できずに死に至る痛ましい事案が相次ぎ、重症者数が過去最多を更新。そんな中、「明かりははっきりと見えてきた」と臆面もなく発信する首相に一刻も早く辞めてくれと願ったのは筆者だけではない。かたがた、政治評論家は「これで一番喜んだのは、近づく総選挙で苦戦を予想されていた自民党の候補者たちだ。総選挙でメディアジャックして、新首相のもとで自民党改革をぶちあげれば選挙での劣勢を挽回できる」と指摘。かつて「自民党をぶっ潰す」と総裁選でぶち上げて総理になった小泉首相の元で自民党が圧勝した例を挙げた。しかし、深刻なコロナ禍の中であえぐ国民はそんなことを許さるだろうか。いや許してはならない。「柳の下にドジョウ」はいなかったと自公政権に思い知らせる総選挙したいものだ。(吉)